

第18回検討会における主な発言

- 完全に治癒したら、どこで認定を解除するかという問題が出てくる。重篤度は手当のランクをつけるということで提案したが、重篤度は手当に関係するが認定とは直接関係しない。
- 発病から治っていくまでの過程がどういう状況かということまで要件に取り込むという考え方は無くはないと思うが、大変。重篤度を常に個人毎の病状だけの意味に捉えずに、病気そのものの類型的な違いに着目して違った基準に取り込んでいくことではないか。
- 個々の方々の状況は、3年に1回の現況届をうまく機能するように見直す必要があると思う。
- 重篤性から見て最低限どこまでは認定し、その後手当のほうをどうするかということではないか。
- 医療特別手当の意味を考えると、例えば生命にとって大変危険であるとか、日常生活が困難であるとか、ADLが高いか低いかとか、あるいは5年生存率から再発の危険があるとか、これを重篤度と呼ぶかは別として、こういう要因を入れることで、すごく説明しやすくなる気がする。
- 可能であれば本当に困っている方あるいは重篤性が強い方についてより手厚くしていくという基本的な考え方はいいと思う。本当に現実的に運用が可能なものかどうかということも、議論するときには十分に踏まえてもらいたい。
- 放射線起因性の濃度を薄めるだけで救済するのは若干無理があるので、要医療性の中で、重篤度という表現が妥当かは分からないが、放射線起因性を若干広げるための理屈が立てられないかという考え方ではないか。
- （グループ分けについて）余り複雑にし過ぎると制度設計が難しくなる。疾病の種類とかに帰着させると、取り込む可能性はあるのではないか。

- 白内障で手術をしたら治ってしまう人と、ずっと（がんで）転移を続けて亡くなってしまふ人が同じように要医療性でよいのか。それを重篤度で言うとすれば、議論の中に入れてほうが良い。
- 疾患を認定するときに、ゼロか13万円ではなく、類型化する中で重篤度で判断してする話なので、要医療性とは切り離して考える必要があると思う。
- （グループ分けを）類型化するときに縦軸も横軸も総合的に判断して、両方とも考えなければいけないと思う。
- 病気の類型化は、要医療性の要件の中の問題でなくて、いわゆる原爆症に対する手当の給付の性格づけを考えると、重い病気であるか軽い病気であるかによって手当の額が違ってしかるべきだろうという、一番根本のところでの違いだろうと思う。
- 早期がんの場合とそうでない場合で、いわゆる重篤度という目で見れば、認定の段階での基準として取り込むには複雑過ぎる。
- 病気によっては期間限定で、このタイプの病気ならばこの程度の期間見てあげれば良いということを、医学的に仕分けが可能どうか考えてもよいのではないか。
- （資料3のP14について）グループ1～4は複雑で、ワーカブルな基準にしようとなると、大なたを振るったような基準が必要。
- 事務局で、方向性3と2をコンバインした領域で、階段での視点から基準、あるいはグループ分けを使えないかどうか、御検討をいただくと制度化が少し促進される。
- ランクづけして、フルにもらっていた方がもらえなくなるだけで終わってしまうのが一番悪い。実際にグレーゾーンのところがうまく取り込めているのかどうかをある程度考えておかなければいけないのではないか。
- （グループ分けについて）判定する行政、申請する被爆者の側にとって余り煩雑にならない制約条件があると思う。また、介護保険の場合は最初から有効期間を設けているので、疾病によってはそういうのも入れていいのではないか。

- （方向性1について）被爆者全部（の疾病を加算対象）とは言っていない。少なくとも国際的に放射線との関係が認められる疾病を（加算）対象にしなければという提案をしている。
- 被爆者の病気を何でも（加算対象として）認定しろと言っているわけではない。がんとか白内障とか心筋梗塞だとか、例示という格好で書いている。骨粗しょう症は挙げている。
- 被曝量、個体差、実情の差、かっちりと決めきれない部分があるからこそグレーゾーンをつくる。そのグレーゾーンをいかに取り込むかということをごここまで議論してきた。
- 認定は医療の給付なので、グレーゾーンを（制度に）入れたときに、グレーゾーンの人たちの医療費は全部給付するのだということを前提にして議論することを確認してほしい。
 - （方向性2において）第二種は一種と切り離して、原爆症に準ずる状態として認定するとしており、グレーと割り切って保険と併用する形もあると思う。
- （グレーゾーンについて）概論的に出すのは難しいのではないかと。グレーゾーンについての見解がこういう領域の中で出されているという実態論に基づいたものを出して貰うことになると思う。
- （グレーゾーンについて）放射線があるかないかという場所のグレーと、疾患をどこまで入れるかのグレーもある。

